

# はじめに

近年、全国各地で大雨や大地震などの自然災害が発生し、多くの尊い命や財産が失われており、「令和元年東日本台風」においては、本町で初めて避難指示を発令する事態となりました。

災害はいつ起こるかわかりません。町といたしましても、災害に備えるため、備蓄品の確保や避難所の整備などの防災対策を進めておりますが、災害において行政のできる支援には限界があります。

災害における被害を最小限におさえるためには、自分の身は自分で守る(自助)と地域で助けあうこと(共助)が重要となってまいります。本防災ハザードマップを目にしていただき、適切な避難行動をとるためにお役立てくださいますようお願い申し上げます。



町長 高橋 純一

## もくじ

はじめに	1	自宅にとどまった場合の備え	16
5段階の警戒レベル	2	災害の「備え」チェックリスト	17
避難行動判定フロー	3	過去の災害	18
マイ・タイムライン	4	洪水浸水想定区域図(想定最大)	19・20
災害時の情報伝達	5	洪水浸水想定区域図(浸水継続時間)	21・22
地域ぐるみで防災に取り組もう	6	広域避難地図	23
風水害対策	7・8	避難の方法	24
揺れやすさマップ	9・10	避難所一覧	25・26
地震対策	11・12	ハザード情報について	27
火災対策	13	全体索引図	28
雪害対策	14	詳細図	29~42
竜巻・雷対策	15	わが家の「緊急・救急情報」防災メモ	裏表紙

## 本書の活用方法について

- 住んでいる場所と予想される危険箇所を地図上で確認しましょう
- 避難先を確認しましょう
- 避難経路を考えてみましょう
- 家族や周辺住民と情報を共有しましょう



## 家族みんなで防災会議

災害は家族が一緒にいるときに起こるとは限りません。いざというときにあわてず行動できるよう、本書を活用いただき、家族で普段から話し合っておきましょう。

- 家の中で一番安全な場所
- 家族一人ひとりの役割分担(安否確認、非常時持出品・備蓄品のチェック)
- 避難先、避難経路(自宅と避難先を確認)
- 自宅付近の災害リスク、危険箇所の確認
- 災害が起こったときの身の守り方
- 家族が離ればなれでいたときの連絡手段、集合場所
- 要配慮者(高齢者、障がい者、乳幼児、妊産婦など)のサポートと避難方法



# 5段階の警戒レベル

避難情報など (警戒レベル)			河川水位や雨の情報 (警戒レベル相当情報)	
警戒レベル 状況	住民がとるべき行動	避難情報	防災気象情報(警戒レベル相当情報)	河川水位や雨の情報 (警戒レベル相当情報)
<b>5</b> 災害発生 または切迫	<b>命の危険 直ちに 安全確保！</b>	<b>緊急安全 確保</b>	<b>5 相当</b>	<b>氾濫発生 情報</b> <b>大雨 特別警報 (土砂災害)</b>
<b>4</b> 災害の おそれ高い	<b>危険な場所から 全員避難</b>	<b>避難指示</b>	<b>4 相当</b>	<b>氾濫危険 情報</b> <b>土砂災害 警戒情報</b>
<b>3</b> 災害の おそれあり	<b>危険な場所から 高齢者等は避難</b>	<b>高齢者等 避難</b>	<b>3 相当</b>	<b>氾濫警戒 情報</b> <b>洪水警報</b>
<b>2</b> 気象状況 悪化	<b>自らの避難 行動を確認</b>	—	<b>2 相当</b>	<b>氾濫注意 情報</b> <b>大雨注意報</b> <b>洪水注意報</b>
<b>1</b> 今後気象状況 悪化のおそれ	<b>災害への 心構えを 高める</b>	—	<b>1 相当</b>	<b>早期注意 情報</b>

市町村長は、河川や雨の情報(警戒レベル相当情報)のほか、地域の土地利用や災害実績なども踏まえ総合的に避難情報など(警戒レベル)の発令判断をすることから、警戒レベルと警戒レベル相当情報が出るタイミングや対象地域は必ずしも一致しません。

避難に時間のかかる**高齢者や  
障がいのある人は、**

**警戒レベル4 避難指示  
で危険な場所から全員避難  
しましよう。**



**警戒レベル4 避難指示  
で危険な場所から全員避難  
しましよう。**



**警戒レベル5 緊急安全確保  
は、すでに安全な避難ができ  
ず命が危険な状況です。**

**自宅の上の階や崖から離れた  
部屋に移動しましよう。**

